

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「学修支援の充実」

提出日 2022年 8月 24日

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)教務機構長
林 隆敏
(教務機構)

1. 長期戦略のテーマ

超長期ビジョン	長期戦略（テーマ名）	統轄部署
1 学士課程教育	(13) 学修支援の充実	教務機構
内容		
<p>大学教育において、学生が学修成果を修得するためには、正課における授業に加えて、授業外での多角的な学修支援が重要となる。このため、学生の多様なニーズに対して個別に対応した学修支援の充実を図る。</p> <p>(ライティングセンター)</p> <p>文章表現力は、論理的思考力など汎用的能力の基礎となるもので、初年次または低年次に徹底して訓練することでその後の大学教育の成果が大きく左右される。これは、学部における基礎演習などの正課科目において身に付けるものであるが、補完的な役割として学生が必要に応じて対面でスタッフから指導や助言、添削等を受けられる「ライティングセンター」を設置する。一般的にライティングセンターは、①レポートを含めた一般的な文章作成②留学生対象の日本語論文作成③日本語での論文作成④英語での論文作成など種々の要望に応じた支援機能を有するが、本大学は最もニーズが高いと想定される①と②に重点を置いてスタートする。</p> <p>スタッフとしては、本大学の学生や大学院生を訓練して活用することをめざすが、特に大学院生の人数が少ないことなどから、開設当初は他大学の博士課程修了者等の活用も視野に入れる。将来的には専門職の職員の雇用についても検討する。</p> <p>また、センターの開設にあたっては、学部の基礎演習などの正課科目と連携し、必要に応じて担当教員から学生にセンターの利用を促す仕組みを構築することで相乗的な効果をめざす。</p> <p>(学修相談)</p> <p>学修相談を行う仕組みとして、本大学では演習担当者が各演習を通して学生支援を行うことを基本としつつ、各教員がオフィスアワーを設定して広く学生の個別相談に応じたり、学部にアカデミックアドバイザー（専任教員）を置き、成績不振学生に対する個別指導を行っている。一般的に学修相談の内容は、①履修登録時のアドバイス、②学問領域についての相談、③生活指導等の三つに分かれるが、①、③については職員が分担可能な領域でもあるため、教職協働による学修支援の新たな仕組みへと発展させ、教員の負担を軽減させる。また、支援を補強するツールとして、学生の多様な情報・データを蓄積した「e-学生台帳」を構築し、活用することをめざす。</p> <p>(TA・LA・SAの活用)</p> <p>TA・LA・SAを一層有効に活用するため、現行ある諸制度の整理、見直しを図り、授業での教育支援（教員への支援を含む）、授業外での学修支援を強化する仕組みを再構築する。</p> <p>【フェーズⅠの Total Review】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要大学の多くが導入しているライティングセンターを本学に導入することができた。特に先行している早稲田大学の事例を参照し、良いプログラムを構築している。 ・学修に関わる支援や授業中の支援など、既存施策をより充実させるべく実施しているが、抜本的な改革にまでは取組めていない。 <p>【フェーズⅡに向けた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な授業形態に合わせた対面・Webによる学修支援体制の検討（専門人材の配置含む） ・ライティング科目におけるオンデマンド授業化の推進 ・学生カルテの活用方策の検討（学内各部署が連携し、本人の多様なデータを活かして学生一人一人をサポートすること） ・学修が遅滞気味の学生への学修支援方策の検討 		

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「学修支援の充実」

提出日 2022年 8月 24日

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)

教務機構長
林 隆敏
(教務機構)

指標 1

指標	内容					
指標名	大学教育への満足度：学習支援や個別の学習指導					
定義・算式	共通学生調査(IR上級生調査)の項目「大学教育への満足度：学習支援や個別の学習指導」の「とても満足」と「満足」の合計					
現状値 (指標設定時)	30.1% (2016年度)、31.0% (2017年度)					
目標値	フェーズ1終了時(2021年度)		フェーズ2終了時(2024年度)		フェーズ3終了時(2027年度)	
	36%以上		43%以上		50%以上	
実績値	2019年度	33.2%	2022年度		2025年度	
	2020年度	22.2%	2023年度		2026年度	
	2021年度	23.2%	2024年度		2027年度	

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「学修支援の充実」

提出日 2022年 8月 24日

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	教務機構長 林 隆敏 (教務機構)
-----------------------	-------------------------

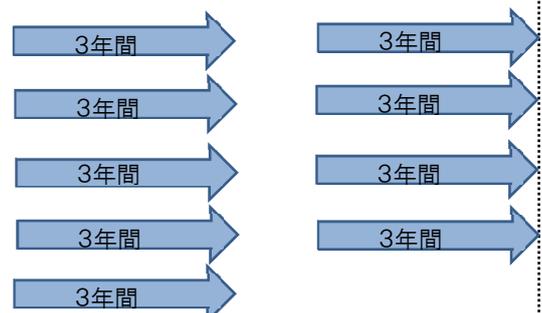
2. 実施計画ロードマップ

実施計画		担当部署	学部・研究科での 取組み有/無	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
①	ライティングセンターの設置	教務機構、	必要なし		3年間			3年間			3年間	
②	教職協働によるアカデミックアドバイスの仕組み確立	教務機構	必要⇒【必須型】(全学部または全研究科での取組みが必須)		3年間			3年間			3年間	
③	TA・LA・SAの活用促進	教務機構	必要⇒【必須型】(全学部または全研究科での取組みが必須)		3年間			3年間			3年間	
④			必要の有無を選択ください。									
⑤			必要の有無を選択ください。									
⑥			必要の有無を選択ください。									
⑦			必要の有無を選択ください。									
⑧			必要の有無を選択ください。									
⑨			必要の有無を選択ください。									
⑩			必要の有無を選択ください。									
【備考欄】												

※想定される実施計画の例示

- ①. ライティングセンターの設置
- ②. 教職協働によるアカデミックアドバイスの仕組み確立
- ③. e-学生台帳の構築・活用
- ④. TA・LA・SAの活用促進
- ⑤.
- ⑥.
- ⑦.
- ⑧.
- ⑨.
- ⑩.

※ロードマップ策定作業用記号



I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「学修支援の充実」

提出日 2022年 8月 24日

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)教務機構長
林 隆敏
(教務機構)

3. 本長期戦略テーマの各実施計画に関する費用、人員の合計 (2019年度～2027年度)

◆フェーズⅠ：2019年度～2021年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2019年度	2020年度	2021年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計(経費+人件費)			

◆フェーズⅡ：2022年度～2024年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2022年度	2023年度	2024年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計(経費+人件費)			

◆フェーズⅢ：2025年度～2027年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2025年度	2026年度	2027年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計(経費+人件費)			

4. 進捗状況等記入欄

	進捗状況および今後の課題、方向性
2019年度	ライティングセンターでは2020年度春学期より学士課程学生向け科目を開講し、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも順調なスタートを切ることができている。TAについては、2021年度以降の定期試験期間の短縮による試験監督者の補填策として学部間での協力体制の検討、また、LAについては、オンライン授業でも活用できる方法を模索中である。
2020年度	昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった。アカデミックアドバイザー(以下、AA)による面談が実施できなかった学部があった一方で、AAによる面談後、修得単位数に改善が見られた学部もあった。これら成果が上がった学部の対象者抽出基準や面談内容を分析することで、AAを通じた全学的な学習支援をより効果的かつ効率的なものに変えていくことが今後の課題である。また、TAやLAも当初対面で実施予定であった科目がオンライン授業へ移行した影響を受け、予定おりの業務を行えなかったケースが散見された。こうした背景もあり、LAを対象としたアンケートからは、LA制度のより良い運用を目指すための意見が読み取れた。これらの意見を基に、LA制度運用のためのガイドラインを作成する等の検討を進めていく。
2021年度	2021年度中に行われたアカデミックアドバイザー(以下、AA)による面談は、全学部実施できている。2021年度中に、2020年度のAA対象者について分析を行ったものの、面談成立率の高い学部は成績改善率も高いとの結果は得られなかった。今後、学生の学修意欲の改善のため、継続して制度運用・データ収集を実施し、有益なアプローチ方法や結果を分析していく必要がある。前年度より、検討がすすめられていたLA制度運用のためのガイドラインについて、2021年度に作成し、教務委員会で報告した。アンケートでも課題にあげていた、オンライン授業でのLA業務について、よりスムーズに授業サポートができるように、研修会では、業務経験者の工夫を共有した。ライティングセンターでは、オンデマンド授業と対面授業を組み合わせたハイブリッド型授業の運用を開始した。今後、この授業形態における学生側、教員側のフィードバックを実施し、次年度以降のクラス数等を検討する。
2022年度	
2023年度	

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「学修支援の充実」

提出日 2022年 8月 24日

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)教務機構長
林 隆敏
(教務機構)

2024年度	
2025年度	
2027年度	